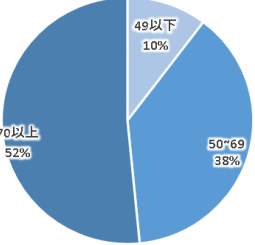
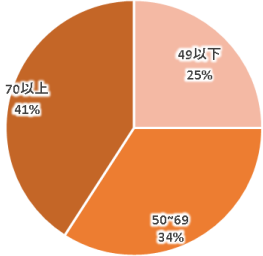
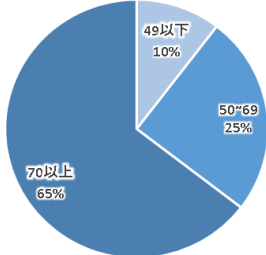
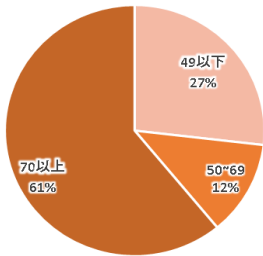


令和6年度「データサイエンス基礎」 自己点検・評価

学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度	学生自身に理解度・到達状況について自己申告制のアンケートを実施している(質問事項「データサイエンス基礎について、自身で感じる理解度を0～100の数値で表してください」。理解度に関しては分析・改善を行いやすいように選択式ではなく数値による入力式にしている。 令和6年度前期開講の「データサイエンス基礎」では2講座、合計受講者数が104人おり、有効回答数97で右図の結果だった。また、後期開講では合計受講者数が59人、有効回答数44で右図の結果だった。学生自身の自己判断で判定するため、学生が謙遜し若干低めの点数が出る傾向にある。例えば成績評価で90点以上の学生が45点と評価している事例などがみられる。今後は全体として、理解度の数値を高く自己評価できる学生を増やしていくように改善を行っていく。 2024年前期 自己認識理解度  2024年後期 自己認識理解度 
学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度	後輩への推奨度に関して「データサイエンス基礎を受講したうえで、未受講の友人や後輩などに勧めるとしたら推奨度はどのくらいだと思いますか。0～100の数値で表してください。」という設問でアンケートを実施している。令和6年前期は2講座、合計受講者数が105人おり、有効回答数97で右図の結果だった。また、後期開講では合計受講者数が59人、有効回答数41で右図の結果だった。 点数全体として非常に高い数値ではないが、個々のコメントについては低い点数をつけた学生でも「将来の役に立つ内容であるため推奨する」旨の記載が多かった。全体的に文系大学であるため、Excel等のデータ処理を苦手とする学生が多く、友人・後輩もその傾向にあるため勧め辛いとする者が多かった。データ処理についての苦手意識に対処するために、Excel操作についての自己学習用動画などの補助教材を充実させることでよりプログラムを受講しやすい環境を整えていく。 2024年前期 他学生推奨度  2024年後期 他学生推奨度 
全学的な履修者数、履修 率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和6年前期の本プログラム履修者は履修定員の88%の履修申し込み状況であった。これに対して、令和6年後期の本プログラム履修者は開講科目定員の100%であり、開講科目に対する認識は進んでいるものと考えられる。一方、履修者数の増加に関しては担当者の開講上限数に制約があるため、履修者数の上限に達した段階で開講数の増加を検討する。